



さくらんぼ

自ら動き、感じ、楽しむ
～笑顔あふれる幼稚園～

NO. 1 令和5年5月11日発行
山口大学教育学部附属幼稚園
URL: <http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

青空の下のびのびと泳ぐこいのぼりのように、子どもたちは園庭で元気に遊び、いろいろな春の自然に触れて楽しんでいます。そんな子どもたちをあたたかく見守るように、花組保育室側の「さくらんぼ」の実も赤く色づいていました。赤く実った「さくらんぼ」は年長児の星組が収穫し、園のみんなで分け合っていたことが園の文化となっています。春の味覚と新年度の楽しい生活を与えてくれる園庭の「さくらんぼ」にちなんで、園での楽しい生活とそこでの育ちを伝える通信「さくらんぼ」をお届けします。

今回は進級、新入から園生活に少しずつ慣れてきている子どもたちの様子を、保育者の思いや願いとともにお伝えしようと思います。

ドキドキワクワクの幼稚園♪（花組）

花組半数登園が終わり、いよいよ全員揃っての幼稚園生活が始まりました。入園当初は、おうちの人と離れる際、少し不安げな表情を見せていた子どもたち。1ヶ月が経った今では、保育者に笑顔で「おはようございます。」と挨拶をする姿やおうちの人に「バイバイ、また迎えに来てね。」と自分から離れる姿も増え、園生活に慣れてきたのだと感じています。

幼稚園生活は、初めての経験、初めての出会いばかりで、毎日子どもたちもドキドキワクワクを繰り返しているのではないかと思います。

4月、カブトムシの幼虫を初めて見た子どもたちは、「何これ？」と不思議そうに見ていました。Aくんは、「これ幼虫でしょ？見たことある！」と一本指でツツツと触り、それを見ていたBちゃんは、「先生が触ってみて。」と保育者の手を掴み、触った気持ちになっているのか保育者が触ると「ひゃ～！！」と震え上がっていました。見ている子どもたちに、「持って見る？」と聞くと、Aくんが「持ってみたい！」というので、手のひらに乗せてあげると、「気持ちいい。横は少しフワフワする。」と言いました。見ていた子どもたちも「触る！」と近寄って、始めは不安な表情でツツツツ…。すると、触れた嬉しさから目を輝かせながら「フワフワしてる。」と何度もツツツツしていました。保育者が「これなんだと思う？」と聞くと、「エビ！」と答えるCくん。「エビに見えるね。でも、これエビじゃないんだよ。」と言うと、「いや、エビ！白いエビだよ！」と言い切るCくん。保育者が大笑いすると、周りの子どもたちも「これはエビだー！」と言って幼虫を触っていました。保育者が図鑑を持っ



てきて、カブトムシになることを伝えると、Cくんは「ううん、エビよ！」と言い返していました。保育者が「これから大きくなるの楽しみだね。」と言うとみんな「いつ大きくなる？」と楽しみにしている様子でした。幼虫が成長する様子をみんなで一緒に見るのが楽しみです。

これから1年間、よろしくお願いいたします。(尾川)



風組になったよ！（風組）

花組から進級した子どもたちに、新しい友達が7人加わって29人になった風組さん。初めてのクラス分けに、少しドキドキしている様子や、新しい環境で見つけたことを目移りしながらも一通り試してみる様子、環境の変化に動じることなく昨年度やっていた遊びの続きを楽しむ様子など、子どもたちのいろいろな姿が見られた風組のスタートでした。

女兒たちは、毎朝相談していたかのように、昨年度からの仲良しの友達を誘い合い「ショーをしよう。」と、両クラスを行き来してドレスを選びます。花組のときよりもサイズアップした風組のドレスです。選んでいるときから楽しそうな表情です。昨年度から何度も遊んできたプリンセスのショーですから「花組さんに見せよう。」「星組に誘いに行くのは？」とはやる気持ちが抑えられません。「ショーがしたい。」という思いがあらわれて、思い立ったらすぐに行動する子どもたちの素敵な姿に、保育者も「まだ、CDとかステージとか何も準備できていないけど。」と言いたい気持ちを飲み込みます。花組や星組からお客さんが来て、ようやく何も準備をしていなかったことに気がつく女兒たちの横で、保育者は女兒たちの思いが叶うようにと大慌てです。バタバタしながら準備することも楽しさの一つです。午前中は、お客さんに披露するショーが開催されますが、午後からは、午前中の様子を見ていた新入園児たちも加わって、お客さんは呼ばない自分たちが楽しむショーになっています。こうして、自分の好きな遊びを楽しむ中で、同じことが好きな友達と出会い仲良くなっていくのが風組だと思います。



男児たちは、星組さんが分けてくれたカブトムシの幼虫を観察して以来、生き物に夢中です。毎日ダンゴムシを探しているAくんが「ダンゴムシを探しに行こう。」と、保育者を誘います。保育者が「いいよ。中庭を探してみる？」と言うと「中庭はダメだよ。だって、大きいダンゴムシは、フワフワの黒い土にしかいないんだよ。」とAくん。よく見ると中庭は白い砂地です。また別の日には、毎日カナヘビを探し続けているBくんが「なんか、今日はカナヘビが出そうな天気だね。」と言っていました。カナヘビが住んでいそうな場所はすべて把握しているBくんは、天気を見てカナヘビの動きを予想できるほど、カナヘビに詳しくなっています。そんなBくんと一緒に、Cくんも「この穴は、トカゲがいそうだよね？」とカナヘビ探しをするようになっています。ダンゴムシやカナヘビを探す姿は、毎日同じような姿にも見えますが、その繰り返しの中で、子どもたちはいろいろなことを感じたり考えたりしています。

自分の好きな遊びを見つけて楽しんだり、友達のしていることと興味をもって自分もやってみようとしていたりする子どもたち。一人ひと



りが「風組になったぞ。」というキラキラした表情で、一年間楽しいこといっぱいになりそうな予感の風組です。(中原)

憧れの星組になって(星組)

進級した21名の子どもたちに6名の新しい友達が加わり、27名で星組の生活が賑やかにスタートしました。進級、入園当初はドキドキ緊張している様子も見受けられましたが、あちこちで聞こえるのが「星組だからね」という言葉です。“幼稚園で一番大きいお兄さん、お姉さんになったんだ”という嬉しい気持ち、自分を奮い立たせる気持ち、いろいろな気持ちとその言葉に表れているように感じます。これまで星組さんにしてもらっていたこと、また星組さんがしている様子をよく見て憧れていたのでしょう。その憧れの気持ちを“いよいよ今度は自分たちの番だ！”と張り切る気持ちに変えているようです。新入園児の子どもたちもそんな進級園児の姿に影響を受けたり、実際に小さいクラスの友達と関わったりする中で年長児としての自覚をもち始めているところです。



先日、星組が年下のクラスの子どもたちを歓迎する『なかよし会』を開き、グループ毎に役割を分担しながら会の準備や進行をしました。年下のクラスを会場に案内するグループの子どもたちの中には、少しかがんで目線を合わせ、「一緒に行こう。」と声をかける姿や「こっちだよ。」と席まで案内する優しい姿が見られました。その時の年下の友達の嬉しそうな顔、きらきらした目で見つめる姿がなんとも印象的でした。こうした関わりから、星組への憧れや親しみが生まれ、つながっていくのでしょうか。手遊びを披露するグループは、前日まで「こうやってやるんよね？」と確かめ合ったり、「ドキドキするけど頑張る。」「おうちで練習してきたもん！」という声が聞かれたりしました。それぞれに思いをもって会に臨む姿は、まさに“星組さん”。なかよし会をやり遂げた顔は一人一人とってもいい顔で「手が小さくてかわかった!」「にこって笑ってたよ。」「嬉しかったってことじゃない?」と喜んでもらったことを実感していました。

学年みんなでの活動もお楽しみの一つで、大きなこいのぼりをつくりました。大きな紙に墨で鱗をダイナミックに描き、鱗の中に好きな絵を描き入れ、オシャレに変身!仕上げに絵の具で色を付けました。特に絵の具を使った色付けは楽しかったようで気付けば手も足もそんなところに!というところにも絵の具が…それだけ気持ちを解放させて楽しんでいたのだと思います。数日かけて完成したこいのぼりをクラスみんなで作って園内をまわり、年下の友達にもお披露目しました。「うわ～大きい!」「素敵だね。」と声をかけてもらい、また嬉しそうな誇らしそうな顔の子どもたちでした。



好きな遊びを通してだけでなく、こうした学年での活動も増え、相談したり、力を合わせたりする場面が多く見られます。その中では葛藤もあるかと思いますが、一人一人がよさを発揮しながら、仲間の中で育ち合うという姿をしっかりと支えていきたいです。(中野祐)